

俳諧秘傳ちり道集卷之下

768-1 (清)

俳諧資料カード

年代

明和五才子

編者
(筆者)

飛良

書名

俳諧秘傳ちり
道集卷之下

備考

(古書改)

(下垣内蔵)

俳諧近道卷之下目録

下垣内和入

一 四季詞の事

二 四季詞の春の部

四 秋の部

六 六句表の巻の事

八 巻の事

十 句数并去煙の事

十二 春正花の事

十四 春正花の事

三 日と夏の部

五 日と冬の部

七 八句表の巻の事

九 対句の事

十一 日用多句の事

十三 春正花の事

十五 夏正花の事

電話六三二七一九八五



十六	秋正花	十七	冬正花
十八	雜正花	十九	雜正花 <small>此枝のみ</small>
二十	正花論	廿一	此正花
廿二	春此月	廿三	夏の月
廿四	社 <small>の</small> 月	廿五	此夜分秋の月
廿六	此月字秋の月	廿七	冬の月
廿八	雜此月	廿九	月字有 <small>テ</small> 此月分
三十	去秋二季液相分	卅一	夏秋二季液相分
卅二	夏冬二季に液相	卅三	冬春二季液相

卅四	春夏秋冬二季液相	卅五	四季に液相分
卅六	日字別吟	卅七	短冊の書法
卅八	懐紙の法	卅九	執筆の法
四十	端紙の書法	四十一	合席忌詞
四十二	合席心得の事		

假字はくま意 音韻用合假名及國

くま	中のめ	くま	中のめ
くま	中のえ	くま	中のめ
くま	中のと	くま	中のめ

口はのまゝにね
うふのまゝにね
志ぢぢづづの濁

つのみと喉と
んじのまゝの
舌のうゆ

狂重開合
反音

俳諧大道憲龍禪師語

俳諧近道卷之下目録終

①四季詞寄の事

むしシヨしニシより諸シヨおニシいづも物シヨをニシ多く

ゆきんシヨく京少シヨてまシヨるシヨ田イナ舎カ乃

はきシヨりシヨもシヨるシヨも日本シヨ少シヨまシヨる

もろシヨくシヨ此故シヨ変シヨまシヨるシヨゆもシヨおシヨのシヨく

書シヨ抄シヨ入シヨてシヨ出シヨてシヨいシヨもシヨむシヨつシヨりシヨた

ちシヨりシヨ少シヨく益エキちシヨりシヨ大内シヨ少シヨくやシヨり

あつシヨらシヨせシヨはシヨ行キヤウ司シヨおシヨはシヨまシヨるシヨく

くりしをさしはくしんも地下乃
 か白ふ好人といふも海なるのみも
 わしを海に用はしる業にけしん
 むきの之を名ふこも事と例い
 海をめぐ復よるぬと右に半
 際まきたやとつらあると南流乃
 事とれを撰とけ教

四季詞寄

二 春之部

正月

脛服 初練 ちよちをなむしん三月とつん
 志即日 初めとち命とつん三月のみとつん

元日

年次 初め 初め 初め
 けこのま けこのま けこのま

このけしめ

けこのま けこのま けこのま
 けこのま けこのま けこのま

若水

初ま 初ま 初ま
 四方拜 四方拜 四方拜

恵方棚 門の神

門松 門松 門松
 徳神 徳神 徳神

河連祓人

祓人 祓人 祓人
 歯祭 歯祭 歯祭

具足飾 ツクモツ びみくら ヒミクラ 歯固 ハカタ 太著 オホシ

雜灸 サワ 萃以夜ふ イモカシ ひくま ヒクマ 儀奥 イモ

あり押粘 オシネ 屠獲 ト 大く オホク 蓬萊 ホウライ

田はくろ タハク けし ケシ 牧の子 ウシノコ 梅子 ウメ 野老 ノラ 扱 アツ

おろし オロシ 祇園削 ギエン け神変 ケシノカ 元教寅切 ゲンケウ 白依 シロヨ

少く男 オホコ 福 フク け ケ 福 フク 元目 ゲンメ

年玉 トシタマ 破魔弓 ハマユミ 眼 メ 招 マカ 玉引 タマヒキ

ヤリ ヤリ 羽子 ウツ 越 コ ぶ ブ 玉引 タマヒキ

荒 アラ 湯敷 ユダシ 弓始 ユミハジ

系初 ケイハジメ 舟玉 フネタマ 初高 ハジタカ 初鶴 ハジツル

初爰 ハジコト 去 イ 初芝居 ハジシバ

初曆 ハジリキ 試筆 シヒツ 松 マツ 儀 イ

万歳 マンザイ 大 オホ 儀 イ 儀 イ

僊使師 センシ 追 オヒ 心 ココロ 儀 イ

懸想文 ケンソウ 節 セツ 節 セツ 儀 イ

水 ミヅ 物連 モノツラ 物連 モノツラ 儀 イ

裏白迷ウラシロヒシ仇ヒ 二ヶ日 初子日子の日

小松コマツ 子こハ小初ハコノ初ハコハ初ハコ 少少ハ二ヶ日 初子日子の日

あまアマ葉ハ 人日ヒトシ 七草シチクサ ちちととふふ 初初子子日日

七日ニチイハ月ツキ 初ハツ宣ノ祭マツル 初ハツ宣ノ祭マツル 二ニ日ニチ

松マツ肉ニク 芸ゲイ面メン富フ実シ 七日 幸シ蔭イン帯タイ此コノ神カミ爰ココ 十日

細ホソ行ユキ 二ニ練ネ步ブ 十日トウジツ 小コ豆マメ粥カシ

店タナ久キウ待マツ 神カミの粥カシ 十五日イハヒ 正月トウジツ

具グ足ソク履ソク 十日トウジツ 初ハツ宣ノ祭マツル 子日コノヒ

御ミコ忌ギ 十日トウジツ 初ハツ宣ノ祭マツル 子日コノヒ

東コト風カゼ 風カゼ 凍コヨロシ 十日トウジツ

七シチ日ニチハ月ツキ 初ハツ宣ノ祭マツル 子日コノヒ

細ホソ行ユキ 二ニ練ネ步ブ 十日トウジツ 小コ豆マメ粥カシ

店タナ久キウ待マツ 神カミの粥カシ 十五日イハヒ 正月トウジツ

具グ足ソク履ソク 十日トウジツ 初ハツ宣ノ祭マツル 子日コノヒ

御ミコ忌ギ 十日トウジツ 初ハツ宣ノ祭マツル 子日コノヒ

東コト風カゼ 風カゼ 凍コヨロシ 十日トウジツ

雪のうら 鳥糞 木の芽 トとえ

くぐら 若菜 梅 根白菜

よめ 蕨 菜 梅 芥

ふれのき 菜 梅 梅

白梅 梅 梅 川柳

梅のぼけ 梅 梅 梅

梅 梅 梅 梅

梅 梅 梅 梅

梅 梅 梅 梅

梅 梅 梅 梅

梅 梅 梅 梅

梅 梅 梅 梅

梅 梅 梅 梅

梅 梅 梅 梅

梅 梅 梅 梅

二月 夜 夜 夜 夜

吉野 御紀 初日 二日 祭 初午 移 赤福

廿八日 卯 初午 春日 祭 上申 大原野 祭 上知

祇園 河内 八日 比良 八幡 祭 花の祭

二月 孝 妙心 遠敷 絶 松明 佛の祭

赤んぐま 二月の果 ねんぐま 二月のふれ 嶮 松明 十五日 夜さう 尺加堂 二日

真福 孝 會 日 積 培 土 日 山 宗 寺

二月 孝 妙心 遠敷 絶 松明 佛の祭

おぼの成の日 二月の果 ねんぐま 二月のふれ 嶮 松明 十五日 夜さう 尺加堂 二日

海 王 寺 祭 會 貝 上 せ の

少 聖 祭 日 茶 祭 の 出 供 日

道 徳 祭 日 被 屋 蛇 穴 と い け る

驚 化 祭 日 鹿 角 祭 徒 尾 の 祭

鳥 乃 巢 祭 日 多 角 祭 雛 祭

鳥 乃 巢 祭 日 多 角 祭 雛 祭

鳥 乃 巢 祭 日 多 角 祭 雛 祭

鳥 乃 巢 祭 日 多 角 祭 雛 祭

鳥 乃 巢 祭 日 多 角 祭 雛 祭

鴨カモ 鶺鴒セキレイ 駒鳥ウマドリ 菘子アブラナ 蝶テフ 蝶テフ

てんぐてんぐのてんぐ 花ハナ 蜂ハチ 蝶カマエ 蛙カマエ 蛙カマエ

虻アブ 地チ 陽炎カゲロウ 猫ネコ 猫ネコ 猫ネコ

るさるさ 初ハツ 蛸タコ 蛸タコ 蛸タコ

細ホソ 飯イヒ 雛ヒナ の子コ 田螺タナ 初ハツ 雷カミナリ

神イナ 梅ウメ 八ヤ 梅ウメ 紅ベニ 梅ウメ 花ハナ 花ハナ

神ハツ 花ハナ 神ハツ さサ 彼ヒ 松マツ 松マツ 松マツ

系イナ 松マツ 松マツ 松マツ 松マツ 松マツ 松マツ

焚イ 地チ 焚イ 地チ 萩ハギ のノ 焚イ 地チ 萩ハギ のノ 焚イ 地チ

麻アサ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ

苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ

苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ

苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ

苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ

苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ

苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ 苧コウ

二のめり

二月

初日

巳の日にしる

上の巳水をききこくして一夜あてのどくしるるすい三月らるて卯の

曲水の宴

たう水きみくつとたうりてきんくた

鶏合上巳

三日 桃のきけ

雛

雛ひま

汐干

出帆海視

汐干

き会

出替り

石山

粟

一系

菜

カイヤ

石水

申

カイヤ

水尾

語

カイヤ

安楽花

吉

カイヤ

比良

錦

カイヤ

壬生念佛

ナ

カイヤ

浅草

カイヤ

人丸供

浅草供

カイヤ

杉尾

み

田鼠ツノ發ツノとま音

萍生ヒナシゆら

郭カクの巢ノ

雀スズメの巢ノ

啄ツク子コ鳥トリ

鶯ウラハ入イる

鳥トリの巢ノ

麥アヲうげク

鳩トビ揚カウ完クワンとま

のげうノ巢ノ

梅ウメうぐクか

梅ウメ緞テンさうサウ負フ

むムぬヌれレ以イ繕セン

絲イト

柳ヤナギ葉ハ魚イサナ

天テン和ワ布フ

糸イト絹クワ小コあア白シロ

紫ムラサキ子コかカこ

沂シ紫シ楊ヤウ

桃モモ

白シロ桃モモいイめメりリ

三ミ子コ代ダイ菜サイ

桃モモ林リン

櫻サクラ

赤アカさサうウ

赤アカさサうウさサくク粉コン

かえカエさサうウ

人ヒト丸マルさサうウ

女メのノさサうウ

いイせセさサうウ布フ引ヒキさサうウ

さサんンくク下カ

脚カドさサうウ

女メのノさサうウ

いイせセさサうウ西セイ引ヒキさサうウ

大オホさサうウ

うウすスさサうウ

女メのノさサうウ

いイとトろロうウひヒさサうウ

たタまマんンさサうウ

女メのノさサうウ

白シロいイさサうウ

いイせセさサうウ女メのノさサうウ

花ハナ乃ノ鈴スズ

花ハナのノぎギ

花ハナのノぎギ

花ハナのノぎギ

花ハナ乃ノ波ハ

花ハナ乃ノ波ハ

花ハナ乃ノ波ハ

花ハナ乃ノ波ハ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ衣イ

花ハナ乃ノ衣イ

花ハナ乃ノ衣イ

花ハナ乃ノ衣イ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花ハナ乃ノ香カウ

花守 梨花

花乃ぬー 花守 梨花

白くー 吹 吹

木瓜のど 沈下花 木蓮花 赤菊花

あきし乃ど 杏枝花 蕨材

小梨花 小梅の花 庭櫻

石楠花 林檎乃もみ 檉乃もみ

楊梅のど 東山花 榎乃花

連翹 莖 花をぬく 母子草

蓮花 芍薬 桔梗 五加

あつまつき 菊 菜花 芍薬

あつまつき 菊 菜花 芍薬

了草 金風花 芍薬

眉化りの花 虎杖

仙臺 山葵 三葉芥 茗荷竹

三月茶 三月大根 芍薬花 芍薬

今福花

ふききお

ふさふ

田わ

山

山

山

山

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

花

三 復之部

四月

四月

復

文

白

白

裕

裕

裕

筑

筑

稲

大

山

平野

松

南

杜

上

南

梅

水

廣

新

友

友

八瀬系 辰

淺佛 八日

浅生云

浅佛 八日

むのむす 又多々 二一仙云々

鷹鳥屋小入 八日

戒壇堂開帳 八日

山崎系 八日 多賀系

江州 江列八幡系 中弁

日吉まつり 中酒 山王

賀茂系 中酒 只系と斗えて交寺と云々

あぶがづら

りろかほり ありいよりり 柳ころ

忌竹子

中山系 中酒

吉田系 中子

三枝系

新川系

南摩

沙車

ナレ日 中乃雅忌日

午間子

昔 三升と思ふ冊子ハ

向日山林系 中辰

友交系

中午 江州

久世系 中辰

地土系 九日

日光系 十七日

野山花供 廿日

汐日吉系 廿九日

京大佛南ニ 社アリ

余花

残む

杉系 酒と煮る

秋 酒と煮る

表秋

茶せんま

芋種系 ぶけり干

苔の糸

牡丹

名

ふりまきまき

むれ王

芍薬

杜若

葵

からあつん

玉を芭蕉

玉を葛

一八 芝尾

薔薇

風車

芥子カイシ

ほろちやく

岩友

礫イワガキ

桑川サカハ

卯花ウツハ

石イシ

水ミヅ

水ミヅ

王オウ

石イシ

木キ

木キ

夏ナツ

木キ

木キ

松マツ

木キ

木キ

柗カク

木キ

白ハク

木キ

櫻オウ

木キ

神カミ

岩イハ

藤フジ

利根草リネクサ

蓬ホノ

合カヘ

郭カク

公キミ

山ヤマ

子コ

代ダイ

石イシ

人ヒト

虫ムシ

草クサ

虫ムシ

蠅ハエ

子コ

虫ムシ

子コ

蟻アリ

子コ

蟻アリ

虫ムシ

虫ムシ

鳥トリ

子コ

蟻アリ

蟻アリ

角ツノ

蟻アリ

子コ

蟻アリ

蟻アリ

蟻アリ

藤の花トウジ 萍ウキのつらね 紅布ベニと刈キ

百合ユリ しらゆり 碧アヲのり さやうり 車クルマ かご

萩ハギのむ さくらとらね花 紅ベニのま まふむむ

紫陽アザミ子サヤ 忘ワスレ草クサ まじはる

石菖セキシヤウ あやめ 芍アヤメ アヤメ 夏ナツ菊キク アサガハ

金キン糸イト 忍ニビ花 霞イロ あせ ま

天テン竺テ あや かやあや あや 破イ あや

新ニ茶チャ 古茶 新ニ麦マキ あま あま

子サねね あや 藜アヤ あや ちあや あや

海ウミ丸マル 白丸 子丸 かりあや あや

さあや あや 生ナマ胡コ桃トウ あや 未アヤ央ヤウ柳リウ乃ノウ也ヤ

花ハナさあや あや 柳ヤナギのあや あや 橘ダイダイ あや

山ヤマ梔シ子シ花ハナ あや 梅ウメ あや

杏コウ あや 枇ビ杷バ あや 山ヤマ砵ヒ あや

千チ日ニチ紅コウ あや 女メ あや 田タ あや

田タ あや 田タ あや 紫シ あや 粟アハ あや

山王系サノウキ 江戸江戸 いはく傳系イハクデン 十番十番 祇園修財ギョエンシュウサイ の

系ケイ 十番十番 博多系ハクダケイ 十六番十六番 伊勢系イセケイ 札札 十番十番

高定カウテイ 十六番十六番 相國寺懺法ソウコクジヤウソウホウ 十七番十七番 志波寺系シハジヤウケイ 十七日十七日

戸以の涼トヨノスズメ 十九日十九日 富士詣フジヨミ 一日ヨリ一日ヨリ 富士比布フジヒフ

富士音流フジネウ 富士比初名フジヒハツメ 新子竹切ニウコタケキ 九日九日

北日北日 洗滌センシヤウ 九日ヨリ九日ヨリ 座ザ 北二日北二日 志波寺シハジヤウ 日詣ヒヨミ

北日北日 指立系サシタテケイ 北五日北五日 天波の沖テンハノウミ 亦五日大坂亦五日大坂

賀辰水之月カチミヅノツキ の旅ノリ 廿日廿日 任吉乃沖ニキヨシノウミ 廿日廿日

廣勝系カウサツケイ 廿日廿日 大極オホキウ 廿日廿日 夕極ユフキウ 川カハ 廿日廿日

かしの代カシノヨ 天極テンキウ と流トナリ 亥カ 神カミ 樂ラク

雷カミナリ の極キウ 次ツギ 乃ノ 子コ 帝ミカド とト 文フミ 驚オドロク 羽ハ

はくひと字ハクヒトジ 廣ヒロ 草クサ 堂ドウ とト ありと日アリトヒ

夕ユフ 之ノ 伏フツ 亥カ 乃ノ 三サン 庚ケイ 乃ノ 初ハツメ 伏フツ 乃ノ 中ナカ 伏フツ

土扇干ドヨウハン 虫干ムシハン 扇アウキ 扇車アウキクルマ 唐扇カラアウキ 団ダン 唐カラ

汗拭アヘヌグヒ 汗アヘ 風カゼ 蕙カネ 乃ノ 涼風スズカゼ 子コ のノ もモ

簞タケ 竹夫人タケウタ 抱アグ 涼スズ 月ツキ 涼スズ 乃ノ 納涼ノウゾウ 日傘ヒカサ

いづこ 泉 清水 しずく 新井 あらた

六月 ろくにくと 水飯 みづい 麻地酒 あし 宮片 みや

宮油 みやあぶら 心太 こころ 葛水 くわすい 干飯 ひやし

万 マン 葵 あひ 冷酒 ひや 心や こころ

名 ナ 淡 たん 葛 くわ 葛 くわ 葛 くわ

梅 うめ 淡 たん 梅 うめ 楊 やなぎ 李 うづも 林 はやし

百 ひゃく 日 にち 紅 こう 梅 うめ 山 やま 沃 わく 河 かわ

蓮 れん 赤 あか 白 しろ 蓮 れん 沃 わく 河 かわ

菱 ひし 菱 ひし 蒲 かや の 穂 ほ 海 うみ 松 まつ 荳 まめ 和 わ 布 ぬい

竹 たけ 皮 かわ 取 と 藺 いん と 刈 かり 日 ひ 竹 たけ 換 か 仙 せん 丹 に

眼 め 皮 かわ 陵 りやう 膏 こう 玉 たま 玉 たま 虎 こ 尾 び の 毛 け

風 ふう 薬 やく 風 ふう 薬 やく 玉 たま 玉 たま 麒麟 きりん 子 こ

鬼 おに 燈 とう 麻 あし 交 まじ 江 え 戸 こ 麻 あし

茗 めい 荷 か 葛 くわ 乃 の 花 はな 後 あと の 花 はな 香 か 需 じゆ 散 さん

和 わ 中 ちゆう 散 さん 仁 にん の 之 の 根 ね 丸 まる 丸 まる 丸 まる

沙 しゃ 丸 まる 丸 まる 丸 まる 丸 まる 丸 まる 丸 まる 丸 まる

丸 まる 丸 まる 丸 まる 丸 まる 丸 まる 丸 まる 丸 まる

五穀の心 鼓子 夕秋 いさごのむ 干碗じく 瓢箪

新り雀 ヒビカリ いざり カカ 蝶 セミ セミのちや ふうせき

蝶のゆけら 夏虫 ナツムシ 火い 蠅 ハエ 蚕 イロ さて

毛虫 ケムシ 蝶 テフ ほすく虫 川狩 カハ ヒキアキ さて

川蟬 カハ 簪釣 サシ 蛸 カサ かき 海月 ウミツキ

沖鱗 ウチ 新纒 アタ 露乱 ツル あまが

掛香 カケ 住吉 スミヨシ 藍刈 アイ 紙芝

辻がむ ツジガム 秋の隣

四 穂之部

七月 亥月 星ふたともうるとし心之

立秋 リウキウ 初秋 秋 アキ 秋 一蒸 イツ 蒸

一蒸 イツ 蒸 柳散 ヤナギ 榭 セ 楸 ク 榎 エノ

揚炮 アゲ 砲 接待 セツ 小野 コノ 野

六日社氏乃 ムスヒ 七夕 セチ 星守 舞 マヒ ありいめ

教り オシ の ね ね い こ 星 お 七 夕 星 の 意 こ も の 意

星の ホシ の あ ま の い は 年 の 星 守 の 後 い ま

あまのついで ちよひ かきくちま 櫛 もみちの

二星屋形 秋さう衣 七巧奠

萩の糸 芋の糸乃敷 本萩の風信し芋の糸を

櫛の糸 櫛の糸より 飛鳥井家七夕鞠 七日

本御門跡 花 七日 ちよひをちよひの

池坊立花 七日 孝入 逆のこひ入 文珠會

八日 六道糸 九日 逆巻 六道よき 中元日 十五日

清水子日詣 十日

生月玉 蓮の儀 父母おぼえ 盆 盆 盆

遷まほり 魂棚 魂 魂 魂

たき火 燈籠 籠 籠 籠

りこころ 躍 おとろ帷 いせおとろ

花おとろ 影目おとろ 二井寺女御 十五日

送り火 十夜 藤天たき ねく傍よおほ 舟

はと入 土ういせ山田 人のまへつと入

あうけ草 又櫛のくとも 浄霊の出 十八日

次花セツク糸ヒモ 河村山系カムラヤマノセキ 相撲スクムツ 角カニノ
ハナカニ

稻妻イナヅナ 涉るシボル 暑アツサ 秋風アキカゼ 律ノ 初ハツ 初ハツ わりし

赤アカ いじ じゃか 扇捨アヒキステ ウチ 湯ユ

物多 割キリ 物多 こころのほ 芳主人 川芳

木槿ムツギ 系花ケイカ 扶海棠フヘイ ねとこへ

女メ 房ホウ を 終ハシ り 不フ 幸サイキ 夕良実ユウカホク 糖ドウ ぐへ

萩ハギ 小萩 萩の下 蘭ラン さらし 芭蕉ヤギョウ

小車コクルマ の花 栴檀シズノ 萩ハギ 萩ハギ 上凡 お撲ウチマク 系ケイ

仙セン 之ノ 羽ウ 花 櫻オウ 多タ 系ケイ 菜サイ 師シ 系ケイ 矢ヤ 矢ヤ を

曼珠沙マンジュシャ 花ハナ まじ 三七サンジュ を 焚ヤク 金キン のノ を

莖ヤク 母モ 系ケイ ま 茗荷メイカ 系ケイ を 芥カイ さい 豆マメ

店イシ 元ゲン 豆マメ 絲イト 瓜ウ 西ス 瓜ウ 手テ 丸マル かり

た ぐ どの を 苺ヒ 麻マ 子シ た 蓮ハス の 矣イ 矣イ

末オ 瓜ウ 乃ノ 矣イ 棍コン の を 常ジョウ 心シン の を 菊キク 系ケイ

き せ こ 乃 又 乃 稻ワヤ 燒ヤカ 系ケイ や ぶ 入イ 七月

秋アキ の 故コ 故コ 涉シボル る 養ホタル 秋アキ 胡コ 際サヘ ひ 色イロ

〇 伍 下

〇 三 三

博覧ハクラン 赤んぼりアカンボリ せんまじんせんまじん 秋はじアキハジ

松マツ ぼりボリ ぼりボリ ぼりボリ ぼりボリ ぼりボリ

くつクツ みの虫ミノムシ 葉たぐ虫ハエタグムシ 楠カマキリ 虫ムシ 古コ 粘ネリ

む合ムカヒ みの虫ミノムシ 藻モ ぼりボリ ぼりボリ

いイ こコ のノ ちチ ぼりボリ ぼりボリ ぼりボリ

冬フユ 蛭ヒルコ 稲虫イナムシ 田生タナシ 道ミチ くらクラ のノ 虫ムシ

綴ツヅ 多タ 屋ヤ 生シ 比ヒ 多タ 多タ 比ヒ 多タ 比ヒ

初ハツ 多タ 符フ 九ク 吹フク 吹フク 吹フク 吹フク 吹フク

八月

糸イト 殿テン 糸イト 糸イト 糸イト 糸イト 糸イト 糸イト

八朔ハツク 田タ 面メ 虫ムシ 日ヒ 田タ 面メ 祝イハヒ 佐サ 行ユク 室ムロ

神カミ 泉イハヒ 苑ヰ 祭マツル 一日イチニチ 水ミヅ 村ムラ 祭マツル 一日イチニチ 泉イハヒ 州シウ 二ニ 日ニチ 灸シウ

塚ツカ 天テン 神カミ 祭マツル 三日サンニチ 少シウ 坐ザ 祭マツル 一日イチニチ 白シラ 鬘ハカマ 閑イダシ 帳テマ

五イチゴ 放ハカ 生シ 會エ 十五日ジュウゴニチ 阿ア 野ノ 津ツ 八ハチ 幡フタ 祭マツル 一日イチニチ

老オウ 海カイ 祭マツル 長チカシ 門カド 志シ 笑カハ 八ハチ 幡フタ 祭マツル 一日イチニチ 宇ウ 佐サ 祭マツル 一日イチニチ

第ダイ 傍ボウ 祭マツル 日ヒ 安ヤス 井イ 祭マツル 六ロク 日ニチ 洛ラク 東トウ 月ツキ 三サン 日ニチ 月ツキ 張チヤウ

月ツキ のノ 弓ユミ 月ツキ のノ 母ハハ 月ツキ のノ 母ハハ 月ツキ のノ 母ハハ 月ツキ のノ 母ハハ 月ツキ のノ 母ハハ

月のちろろー 夕月トキ 月の桂ツバキのつ 桂ツバキの光 月のちろろ
月とろろー 月の若ワカ さうさの光 桂ツバキのけ 音ネ響ヒび

りよの月 三ミの夜 ひと若月 待マツの春ハル 七月ナナツキの光 小コの月ツキ 十月トウグツの夜

いさよひ十六夜 去クすくら月十七夜 居イ待マツ月十八夜

ふーさら十九夜 亥イ中チウ 去クあ半ニハ 十九夜

のちり月二十夜 くどり月二十三夜 去クあ月二十四夜 のちり月二十五夜

弥ヨシ延ノビ 菅カネ大臣タイジン祭マツル 十六日 浮ウ雲クモ 去クあ十八日

菜ナ名ナ氣キ 十六日 後ノチの待マツ春ハル 去クあ十八日

新ニ田タ姫ヒメ 三月ミヅの月ツキ 芙フ蓉ロウ 去クあ十八日 のち

木キ犀セイ花ハ 蒲フ萄トウ 去クあ十八日 宇ウ宿シュク七シチ園エン

去クあ十八日 花ハ聖セイ 去クあ十八日

一ヒトとすトスき 去クあ十八日 去クあ十八日

川カハ萱カヤ 去クあ十八日 藍アイ 去クあ十八日 橙テイ 去クあ十八日

紫ムラサキ花ハ 去クあ十八日 月ツキ 去クあ十八日 去クあ十八日

去クあ十八日 去クあ十八日 去クあ十八日

風フウ仙セン花ハ 去クあ十八日 去クあ十八日 去クあ十八日

沢サハ桔キ梗キョウ 去クあ十八日 去クあ十八日 去クあ十八日

苗香の亥 鴨上戸 鴨尻 文之此

辛 牡丹の付招 芍薬の付私 生房引

蓋 菜塔 胡荽通 若菜の付私

刈安 木とと丸や 若菜の付私

鬼燈 菜塔 鴨 鴨

衣 鴨 鴨 鴨

川系しと 鴨 鴨 鴨

稲 雁 雁 雁

小鳥渡 之 鴨 鴨

つみ 鴨 鴨 鴨

麻 鴨 鴨 鴨

太力 鴨 鴨 鴨

鴨 鴨 鴨 鴨

鴨 鴨 鴨 鴨

鴨 鴨 鴨 鴨

鴨 鴨 鴨 鴨

鴨 鴨 鴨 鴨

鴨 鴨 鴨 鴨

初社 江社 奠 穂 小穂

野分 初汐 田

新蕎麦 新采 新穂 田

田をほく 田の巻 稲 稲

いさりの 稲 稲 稲

新穀 木城刈 粟刈 稲

葉山子 添糸 川根

子 水

九月

初月 秋のつきとんをソク
新月 きのの月とソク

粟もの 裕 桂乃宮

泉涌寺 舍利會 重陽

菊 菊の葉 小袖

碓礮糸 張子糸 炎布祢糸

清香糸 生玉糸 四宮糸

下きね糸 菊源糸 六條玉糸

白河糸 寶の市

赤の糸 社アリ 十三日 住主ロ
升ヲ買フアリ

ほ乃名月 月之 十三夜 巨名月 月之 名月

二束の 天玉寺一乗會 曹 岩倉祭 十町 小山

小念系 十町 栗田系 四日 一文系 月日 河内

神田系 月日 式列 長濱系 月日 江列 岩俣系 月日 山

渡系 十六日 伊セ 御祭 十六日 十七日 伊セナリ

山口系 中巳午 月坊 あやと系 十七日 ぼま留 くらと系

十八日 久世系 十九日 西京 八幡花の氏 九日 伊りむる

同池田 婆利女系 九日 辻家町 橋急びとすけり 九日

城南系 九日 上もね 竹田ニリ 天王寺 諸縁灌頂 九日

太秦系 九日 叶系 流系 九日 天沼満流馬 生者 大坂

木幡系 九日 藤谷系 四日 逆巻系 月日

水山系 九日 津村系 九日 神と津系 九日

野々系 九日 野々系 九日 横川の法枝

菅蛤系 出かり系 八日 菊 九日

今めめい しろを びの才 大いんりや こひひさく 大やうい 考まき ちんりくま ありをま くらりさく

白うく ちんりく 小うく 菊のち ちんりく 白菊

紅糸ベニイト 梅りんウメリン 梅りんウメリン

楓カエデ 合アヒ 飲イン 木キ の紅糸ベニイト

名本メイホン 杉スギ 榎エノキ 柅キ 木キ の実ミ

色イロ かカ ねネ 鴨脚カキ 木キ の実ミ

桜サクラ の実ミ 栗クリ 梨ライ 木キ の実ミ

榎エノキ 榎エノキ 榎エノキ 榎エノキ

榎エノキ 榎エノキ 榎エノキ 榎エノキ

菜サイ 黄ワウ 蜜ミツ 榎エノキ 三サン 人ニン かんカン 久ク 年ネン 母ボ

柚ユ 重オモシ 列リツ 榎エノキ 佛ブツ 榎エノキ

ゆユ りリ ろロ ろロ ろロ 果クワ 李リ の実ミ

松マツ 榎エノキ 榎エノキ 榎エノキ 榎エノキ

榎エノキ の実ミ 榎エノキ の実ミ 榎エノキ の実ミ 榎エノキ の実ミ

志シ 栗クリ 皂サイ 莢ケイ 菩ポ 提テイ 子シ 松マツ の実ミ

榎エノキ 榎エノキ の実ミ 榎エノキ の実ミ 榎エノキ の実ミ

たタ もモ のノ こコ 梅ウメ 榎エノキ 榎エノキ の実ミ 榎エノキ の実ミ

榎エノキ の実ミ 榎エノキ の実ミ 榎エノキ の実ミ 榎エノキ の実ミ

野ノ抄セウいイ 秋三月、 仙セン蓼リョウ くらら色

草クサ枯カレ 切つておく 厚ホら皮 去れどま

芦アシ此コ毛 切りつゝ 心ココロいイまマ 紙ヒ草クサ花

えやみま 五葉 心ココロかカ 老ラウ母モま

おもしろ 文オン豆トウ はつ川

草クサ摺シ ちぢり 松マツ ちぢり 尾ビ乃ノ鴨カモ 細ササ代ダイ赤セキ

新ニウ酒シユ 古酒 中ナカくク ぶらり とトらラ 射シヤ

小コ曝ハク江エ鮎リョウ さうい 尾ビ乃ノ鴨カモ 細ササ代ダイ赤セキ

露ツユ霜シロ 露ツユ付ツケる はゆユを 肌ハダさサじ

東コト空サム あアさサをウ 漸シヅりリを うウせセをウ

冷スレ 痛シメ心ココロ麻マ 然シカ栗クリのノ棚ナベかカく

新ニウ後ゴ 本ホンとト云クニ 一ヒト色シキ 衣イ小コ者ウラとトいイしシ

秋アキ 秋アキのノ秋アキ 冬フユ 冬フユのノ秋アキ 任ニ台トウ比ヒ神シ送ソウ 神シ送ソウ 元ゲン日

九月クニツキ 秋アキのノ秋アキ 任ニ台トウ比ヒ神シ送ソウ 神シ送ソウ 元ゲン日

九月クニツキ 秋アキのノ秋アキ 任ニ台トウ比ヒ神シ送ソウ 神シ送ソウ 元ゲン日

九月クニツキ 秋アキのノ秋アキ 任ニ台トウ比ヒ神シ送ソウ 神シ送ソウ 元ゲン日

梅のむ ヒラキ 枇杷乃む ビロ 菜花 チヤ 山菜 ツツ

冬牡丹 フユホトシ 八木花 ヤツテ 冬果 カンキク 冬菜 ツツ

海りん カリ 公暇 ヤブ 小云 コクモ 莖菜 ツツ

苜蓿 カマ 干苜蓿 ヒリ 大根 オホコン 蕎麦 ソウ麦

麦 ムギ 初雪 ハツユキ 沙冰 コホリ 待水 カホ

月 ツキ 初雪 ハツユキ 細代 コホリ 待水 カホ

柴漬 シラ 子鳥 コトリ 細代 コホリ 待水 カホ

水 ミヅ 水 ミヅ 鴛鴦 ウヰ

鴨 カモ 鴨 カモ 鴨 カモ 鴨 カモ

木 キ 木 キ 木 キ 木 キ

油 アブ 油 アブ 油 アブ 油 アブ

白 シロ 白 シロ 白 シロ 白 シロ

綿 ワタ 綿 ワタ 綿 ワタ 綿 ワタ

蒲 カマ 蒲 カマ 蒲 カマ 蒲 カマ

因 イン 因 イン 因 イン 因 イン

紙 カミ 紙 カミ 紙 カミ 紙 カミ

衣 イ 衣 イ 衣 イ 衣 イ

以巾ツキ 九以巾 大以巾 甲以巾 乙以巾 丙以巾 丁以巾 戊以巾 己以巾 庚以巾 辛以巾 壬以巾

冬フユかま人 冬フユかま人 小窓コマド閑ヒラ 香カ等ト

香カ恒ト 神カミ速ハヤ 卅日

十月

十月 亥の月 十月十日

朔旦冬至ツキトシ 一陽來復イツヤク 梅ウメ文フミ糸イト 上卯

相サウ掌シヤウ糸イト 大和 山科ヤマキ糸イト 上巳 冬フユ望ミツル糸イト 上申

杜ト本ホン糸イト 同日 通ツウ廣クワ糸イト 粟アワビ川カハ糸イト 上酉

通ツウ宗ソウ糸イト 同日 中ナカ山ヤマ糸イト 杉シラカシ尾ビ糸イト 同日

大オホ原ハラ糸イト 中子 新シン掌シヤウ會カイ 中卯 豐トヨ明メイ會カイ

吉キチ田テン糸イト 中酉 日ヒ吉キチ糸イト 同日

日ヒ吉キチ糸イト 同日 日ヒ吉キチ糸イト 同日

東トウ三サン條ジョウのノ所シヨ神カミ糸イト 下卯

子コ糸イト 子コ目 吹フイ草カサ糸イト 八日

空ウツ也ヤ忌キ 十二日

大オホ師シ匠シヤウ 卅日 天テン台ダイ大オホ師シ匠シヤウ 卅日

宇ウ賀カ糸イト 卅日 山ヤマ神カミ糸イト

里神乐 サトノカク 小忌夜 コノヨ 日かげの糸 ヒカゲノイト

神乐 カク 神楽 カク 神楽 カク 庭火 ニハヒ

大前法 オホサエハリ 小いさる コイサる その外神楽の宝物 ソノソトノカクノタカラモノ 御火焼 ミカヒヤキ

龍見世 カホミ 髪屋 カミヤ 氷臭 ヒコウ の使 ノツケ 冬玉 トウジ

冬玉梅 トウジ 又咲梅 マタサキウメ 又咲梅 マタサキウメ 冬玉 トウジ

あま色 アマイロ 水仙 スイセン 金盃 キンサイ 冬玉 トウジ

太山櫓 オホヤマ 音比下 ネギ 神ぶう カミブウ ひとしり

人参 ニンジン 生薬 セイヤク 将 カサシ かりむのきり

鷹 トビ 大たち オホタチ ありたり アリタリ ありさう アリスウ 冬玉 トウジ

冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ

冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ

冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ

冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ

冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ

冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ

冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ

冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ

冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ 冬玉 トウジ

大徳寺開山忌 廿二日

雪ユキ 雪ユキ丸マけ 雪ユキおおここり 雪ユキららん 雪ユキ佛ツツシ

雪ユキ不ふててい 雪ユキ女メ 雪ユキははややけ 雪ユキのの肌ヒ 雪ユキのの肌ヒ

雪ユキ山ヤマのの雪ユキ 雪ユキのの雪ユキ 雪ユキのの雪ユキ 雪ユキ氷ヒョウ 雪ユキ氷ヒョウ

雪ユキ凍コウ 雪ユキ凍コウ 雪ユキ凍コウ 雪ユキ凍コウ 雪ユキ凍コウ

雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな

雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな

雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな

雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな

雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな

雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな

雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな

雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな

雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな

雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな

雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな 雪ユキ皆みな

厄おこし 煤掃 十一の目 餅搦 二十九の日
厄掃き 煤掃 十一の目 餅搦 二十九の日

りろ びとどろろ 継おこし
りろ びとどろろ 継おこし

ふりくろり かぶが賣 伊連けん賣
ふりくろり かぶが賣 伊連けん賣

沐浴しよのふし月の 曆の末 暮えつる暦 二よみ
おこしくきとこへんま 曆の末 暮えつる暦 二よみ

子ナリクシヨ 春 暮と隣 暮とゆ 二冬見
子ナリクシヨ 春 暮と隣 暮とゆ 二冬見

札納 年貢納 夜配り 年木ころ
札納 年貢納 夜配り 年木ころ

岩見 門松 小晦日 大二十日
岩見 門松 小晦日 大二十日

禊文の終る 和布刈の神又 亦る夜丑刻
禊文の終る 和布刈の神又 亦る夜丑刻

祇園 初けの神事 晦の夜寅の刻にけり
祇園 初けの神事 晦の夜寅の刻にけり

年の梅 白くろ 少々 忘さ じじ
年の梅 白くろ 少々 忘さ じじ

そりの板 そりの波 年の暮 年の終
そりの板 そりの波 年の暮 年の終

そりの枝 そりの果 年の暮 年の終
そりの枝 そりの果 年の暮 年の終

そりの木 年の暮 年の暮 年の終
そりの木 年の暮 年の暮 年の終

少々 けり ちんちん
少々 けり ちんちん

六六旬表卷

經方仙之注

○彼仙の首尾

是ハ仙の神表と終りの裏と

表六旬 五旬め月

裏六旬 五旬め七

○經方仙之巻

表に与

他月あくううう角に
四表表一とある

裏八旬

うらう角月
七旬め七

二表八旬 七旬め月

二裏四旬

二旬め七

是ハ中右の形はあうう外に降うもふまは
類日并そ人の月次ハ自他乃る方あう
下月但表まする令ハ法必一混し通用

下月但表まする令ハ法必一混し通用

是ハ中右の形はあうう外に降うもふまは

類日并そ人の月次ハ自他乃る方あう

下月但表まする令ハ法必一混し通用

是ハ中右の形はあうう外に降うもふまは

類日并そ人の月次ハ自他乃る方あう

下月但表まする令ハ法必一混し通用

是ハ中右の形はあうう外に降うもふまは

○經方仙之巻

經方仙之巻とわうう角に
まうう月かあると法必一混し通用

表六句 みづめ月

裏七句 七白め月

二、表七句 十一白め月

二、裏六句 みづめ月

右吉抄セチの巻の八句め月秋とどくし者
まゝくハ短句の月ハ秋とどくし者
ゆと秋とけりハ十一句め花ハとくし者
ふハハ裏の七句め月の定規ハとハ海ハとハ
くハハ裏の七句め月又ハ月とハしとくし者

○源氏の巻

表六句 みづめ月

裏七句 七白め月

二表十二句 十一白め月

二裏十二句 七白め月

三表十二句 十一白め月

三裏六句 七白め月

⑦ 八句表巻

○百負の首尾

是ハ百負ハ袖表と終りのうらま

表八句 七白め月

裏八句 七白め月

○四十四の巻

表八句 七白め月

裏十四句 九白め月

二表十四句 十一白め月

二裏八句 七白め月

○長秋の巻

表八句 七句り月

表十六句 十一句り月

二表十六句 十一句り月

二表八句 七句り月

是又中右の新法しん 綴り多し 綴り多し 綴り多し
又十箇を綴の綴り多し 綴り多し 綴り多し 綴り多し
綴り多し 綴り多し 綴り多し 綴り多し 綴り多し
綴り多し 綴り多し 綴り多し 綴り多し 綴り多し
綴り多し 綴り多し 綴り多し 綴り多し 綴り多し

○五十頁の巻

表八句 七句り月

表十句 九句り月

二表十句 十一句り月

二表十句 九句り月

○七十二候の巻

表八句 七句り月

表十句 九句り月

二表十句 十一句り月

二表十句 九句り月

三表十句 十一句り月

三表八句 七句り月

○百韻之巻

表八句 七句り月

表十句 九句り月

二表十句 十一句り月

二表十句 九句り月

三表十句 十一句り月

三表十句 九句り月

名表十句 十一句り月

名表八句 七句り月

備後をわづらふ。しゝゝゝゝの傍にもしは
其中、風種者くも、誠のふらるゝを

○睨に其ふたりのは、さうだが、詩に、
自ら心のこぼれ、遠るゝ客、自ら小亭、
らく花のまよふと、友、ぼくごころ、まんと、
ひくゝ、教字、あると、文字、して、あつゝ、
て、おもしろい、五、の、傍、は、と、か、ら、な、ら、ず、

○笑と、持、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、
た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、た、

卒、分、と、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
上七文字の終り、て、の、ま、あ、ら、ふ、あ、ら、
あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、
あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、
○甲の、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、
あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、
あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、
あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、
あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、あ、ら、

史一とては、（イ） 漢書は、（ロ） 史記は、（ハ） 其のころの心持ありて
何れもすべし、（ニ） 百篇ともなるるは、（ヘ） 漢書は、（ロ）
漢書は、（ロ） 漢書の付よとて、（ヘ） 漢書は、（ロ）

○六のめは、又六のめなりとて、（イ） 漢書の付よとて、（ロ）
又漢書の付よとて、（ヘ） 漢書の付よとて、（ロ）

○七のめは、月の定座なり、（イ） 漢書の付よとて、（ロ）
漢書の付よとて、（ヘ） 漢書の付よとて、（ロ）

○八のめは、月の定座なり、（イ） 漢書の付よとて、（ロ）
漢書の付よとて、（ヘ） 漢書の付よとて、（ロ）

○九のめは、月の定座なり、（イ） 漢書の付よとて、（ロ）
漢書の付よとて、（ヘ） 漢書の付よとて、（ロ）

○十のめは、月の定座なり、（イ） 漢書の付よとて、（ロ）
漢書の付よとて、（ヘ） 漢書の付よとて、（ロ）

○十一のめは、月の定座なり、（イ） 漢書の付よとて、（ロ）
漢書の付よとて、（ヘ） 漢書の付よとて、（ロ）

○十二のめは、月の定座なり、（イ） 漢書の付よとて、（ロ）
漢書の付よとて、（ヘ） 漢書の付よとて、（ロ）

○十三のめは、月の定座なり、（イ） 漢書の付よとて、（ロ）
漢書の付よとて、（ヘ） 漢書の付よとて、（ロ）

○十四のめは、月の定座なり、（イ） 漢書の付よとて、（ロ）
漢書の付よとて、（ヘ） 漢書の付よとて、（ロ）

○十五のめは、月の定座なり、（イ） 漢書の付よとて、（ロ）
漢書の付よとて、（ヘ） 漢書の付よとて、（ロ）

○十六のめは、月の定座なり、（イ） 漢書の付よとて、（ロ）
漢書の付よとて、（ヘ） 漢書の付よとて、（ロ）

○十七のめは、月の定座なり、（イ） 漢書の付よとて、（ロ）
漢書の付よとて、（ヘ） 漢書の付よとて、（ロ）

同季の一首のうし抄のうしろく月花乃花と
字の通又ハ抄の多の身に班若の後に月花の
抄のうしろに抄の花前の抄の班若の抄の班若の
遠のうしろに月花の抄のうしろに抄の班若の抄の班若の
笑のうしろに抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の
あまの功者へのうしろに抄の班若の抄の班若の抄の班若の
野と若のうしろに抄の班若の抄の班若の抄の班若の

九 付句仕様の年

付句の水の流るるうしろに抄の班若の抄の班若の抄の班若の
又まのうしろに抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の
うしろに抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の
他のうしろに抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の
よまのうしろに抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の
一卷もえらうし抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の
又ハ付句のうしろに抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の
からうしろに抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の
さくさく上るの付句の他人のうしろに抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の
うしろに抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の抄の班若の

おびしなぬがねしりびらく〜愛化とると
いひへ〜た〜いへ〜とよのなる〜とよ一
いふ〜いぬ白〜ぬ白〜骨〜一
一本の柱びりごととる〜

⑩ 十句数英去嫌逆道

○同季五句去 日替り〜に日〜

去秋 スズメのまじり 夜 あけ 花 はな 復 たがひ

いふ 雪 ユキ 時 とき 月 つき 花 はな 復 たがひ

一白の同季とめ〜〜と〜

○戀 ニ句より三句をけくせ一白〜んは捨て 五句去

神祇 シヤクシヤク 釈教 シヤク 空帯 ウツリ 述懐 ツツ 懐旧 ウキ 嶺 ミネ 氷色 ヒヤイロ

若而 ワカシヨ 樓 ウツ 生教 セウキョウ 多教 タキョウ 説神 セツシヤ 時分 ジカン 東谷 トウヤ 支神 シテシヤ

右く分皆二句去

但樓 ウツ の ノ 木 キ 系 ケイ 竹 タケ 生教 セウキョウ 虫 ムシ 子 コ 齋 サイ

右かぬ小只からとる二句去

○人倫 ニンリン 降物 カマリモノ 浮年 ウキトシ 名而 ナニシ 而名 ニシ 食教 シヨウキョウ

天相 テンサウ 書類 ショルイ 云終 ゴンシュウ

右く分二句去也

十一日 月夜多かたの夜合のそと

むとば。ぼ。か。む。まに。ぐり。分。皆。日。あ
ゆる。新。く。あ。い。る。ん

一文字 新字 するとする。んとしてん

ちを新いほとと二るを

めん。つん ちん せい

ぬとぬ ふのぬ 二のぞり

月、日、の、日、日に、月、の、月、あ、る、と、る

大と大。い、と、い、お、と、と、と、と

せとく せとく 七のそと

玉の名と玉の名 玉名 玉名 玉名 玉名

おうしとと とうしとと 二のそと 二のそと

ふまふり とうまふり 二るを

一と一七のそと お ちりく

二ヨリ十マテ 二のそと 二のそと 二のそと

ふみとあふん 二のそと 百千方の一

季のそと 二のそと 二のそと 二のそと

二のそと 二のそと 二のそと 二のそと

十三 春正花 枝ぬ二る去分

花の枝 を捨てる 枝ぬ コトモ 花の種 を 枝 を

むら 枝ぬ 上茶 ヤカ 上茶 を 枝ぬ コトモ 人の花

花 を 枝ぬ コトモ 花 を 枝ぬ コトモ

十四 春正花 枝ぬ去分

修の花 花去盡

十五 夏正花

張花 余花 花 を 枝ぬ コトモ 花 を 枝ぬ コトモ

祇園會津の花 枝ぬ コトモ

十六 秋正花

花火 花火 本道門跡 カサ 花 を 枝ぬ コトモ

十七 冬正花

ゆり花 花 餅 餅 花 を 枝ぬ コトモ

十八 雜正花

花 を 枝ぬ コトモ 花 を 枝ぬ コトモ

依り花 花 を 枝ぬ コトモ

十九 同 花 を 枝ぬ コトモ

花 を 枝ぬ コトモ 花 を 枝ぬ コトモ

花の^{あな}あな 花^{つば}つば^{いろ}いろ^{あけ}あけ ^とと^{あけ}あけ

花の^{いろ}いろ^{あな}あな ^とと^{あけ}あけ ^とと^{あけ}あけ

花^{いろ}いろ^{あな}あな ^とと^{あけ}あけ ^とと^{あけ}あけ

花^{いろ}いろ^{あな}あな ^とと^{あけ}あけ ^とと^{あけ}あけ

① 正花権

花を^ああ^ささ^らら^しし ^とと^ああ^ささ^らら^しし ^とと^ああ^ささ^らら^しし
花を^ああ^ささ^らら^しし ^とと^ああ^ささ^らら^しし ^とと^ああ^ささ^らら^しし
花を^ああ^ささ^らら^しし ^とと^ああ^ささ^らら^しし ^とと^ああ^ささ^らら^しし

② 北山花

花^{いろ}いろ^{あな}あな ^とと^ああ^ささ^らら^しし

花^{いろ}いろ^{あな}あな ^とと^ああ^ささ^らら^しし

③ 春月

月^{いろ}いろ^{あな}あな ^とと^ああ^ささ^らら^しし

④ 夏の日

月^{いろ}いろ^{あな}あな ^とと^ああ^ささ^らら^しし

月^{いろ}いろ^{あな}あな ^とと^ああ^ささ^らら^しし

月^{いろ}いろ^{あな}あな ^とと^ああ^ささ^らら^しし

かきりくろくさむむらのはきふあけをりては

④ 菖 稷乃月

名月 ナツカ 夕月 カシ 之月 ニヨヒ 之月 ニヨヒ

月 ユキ 之月 カシ 上 カシ 下 カシ 月 カシ 之月 カシ

月 フ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ

月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ

月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ

月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ

月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ

⑤ 菖 夜乃秋乃月

之月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ

月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ

月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ

月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ

⑥ 月之まありなる秋の月

月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ

月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ

月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ 月 カシ 之月 カシ

うゝゆ 冥中 イミナカ 才を授 サカシ 文神 カミカミ いたるとその時

⑤ 荜 ヒ 荜 ヒ 此月

さき サキ 月 ツキ さびる月 月の水 ツキノミヅ 月のさびる ツキノサビル 月のさびる ツキノサビル

⑥ 雑の月

吾 ガ 月 ツキ 花 ハナ 吾 ガ 月 ツキ 花 ハナ 吾 ガ 月 ツキ 花 ハナ 吾 ガ 月 ツキ 花 ハナ

公 キミ の月 ツキ 公 キミ の月 ツキ 公 キミ の月 ツキ 公 キミ の月 ツキ 胸 ムネ の月 ツキ 上 ウヘ 日 ヒ

⑦ 月のまがく月 ツキノマカクツキ 月 ツキ 月 ツキ 月 ツキ 月 ツキ

月 ツキ 夜 ヨ 月 ツキ 夜 ヨ 月 ツキ 夜 ヨ 月 ツキ 夜 ヨ 月 ツキ 夜 ヨ

⑧ 春秋二季 シュウシュウニキ 海 ウミ の分 ワケ

やぶ ヤブ 入 イリ せう セウ 入り イリ 入 イリ 被 ヒ 者 モノ 二 ニ 日 ヒ 炎 ヒ

野 ノ 野 ノ 野 ノ 野 ノ 野 ノ 野 ノ

右 ミダヒ 後 ノチ 順 ツグ と ト 名 ナ 無 ム 名 ナ 法 ホウ 入 イリ 法 ホウ

名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ

名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ

名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ

名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ

名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ

名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ 名 ナ 入 イリ

(世二) 夏採二季に採るもの

採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

(世三) 夏採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

採るもの 採るもの 採るもの

ほのくさくさく新中柳り寝足登
 年の実のあつらひや初としけ隆
 従子の如くしらぬ日れふより人の地の教く優
 大木のの根をのびたきしむと年れ名張と
 おしひるはたおまじ能くまき一画の如く
 例の狸をかかへば其は海怪をも引けし
 (世) 去る秋之季は後止む
 新白 秋の白をちる白の香又も秋のあしむく
 結 結の白をちる白の香又も秋のあしむく

築

抄

(世五)

四季の酒

春もたけりとも秋もたけりとも冬もたけりとも夏もたけりとも

秋の白をちる白の香又も秋のあしむく

春もたけりとも秋もたけりとも冬もたけりとも夏もたけりとも

秋の白をちる白の香又も秋のあしむく

春もたけりとも秋もたけりとも冬もたけりとも夏もたけりとも

(世六) 同字別吟

下みろ字平くを海へかきん

○**世** 執筆之法

先合。去短ハ其度のそ尾出合。遠近
運連の人も多ク之吟多ク。るをきとん
一在沈。或は雜候と後。又余をげりて
運連の人もと出。り事。もあり。余白
出。りとも人の白。ま。ば。ゆ。く。け。ん
一在入。吐。ま。り。多。う。う。ま。う。ん。懐。字。を。毎。夜
く。返。し。て。去。短。と。改。し。て。う。ま。う。ん。懐。字。
そんく其余もそ尾へ伊とん

○**甲** 諸作之書法

能諧と連致と書う古法。面代他諧と
致仙。百韻と白敷小多くと徳。家。ま。ま
連。ま。う。財。物。と。取。し。り。他。諧。ま。う。り。の
銭。お。と。え。し。り。也。城。お。の。り。の。甲。小。ソ。ッ。ク。と
一。美。の。名。自。と。他。諧。の。ま。ま。も。う。く。ま。と
連。ま。の。古。法。と。ゆ。く。も。う。他。諧。の。ま。ま。詩。致
連。備。と。四。家。小。の。ま。ま。う。く。れ。今。う。ん。れ。と。連。致

かゝつても思ひ之の一字と入く候りし

① 會席忌詞之事

○ 婚禮のまふ。ふまき。暇。切。く。ま。ま。ま。

去ル。ぬも。床も。ほま。かごの。

○ 遊吉の會に。鬼。地獄。家。ま。ま。

沈む。あ。化物の。

○ 珍宅の會に。焼。り。ゆる。は。ま。ま。ま。

○ 夏越のま。夏乃ま。ま。

○ 天神奉納。總。ま。ま。

○ 髪をえ服に。髪切。解。髪。元。ま。ま。

○ 袴をがづと袖ふ。裸。連。ま。ま。

○ 宿氣衫袂に。お。ま。ま。ま。

右ふか。金。ま。ま。ま。ま。ま。

其。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

白。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

り。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

り。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

石を懸かるの句とききしおしどし

罪 金 席 心 得 の 事

第一ふ益物とたぐはびすくひくともをたり
ワカミの行と人。縁候世るのうらさ。世。
ほ奥し儀の七を。飽まて念にぬくまの
破度くまそりふ式もわ小まそいめをた
腫脹。あまび。珠敷りり百作ふとそり。
アノキ。とせるとまうし。又ま衣紋にらじ
わく杖つと足とそて。目鼻。杖も障まく

しひ。ゆふぬまどあてよつししし
しとえんぐさし其不さあくの癖まそのうり
一順も候わふなとそ。海屋ふしゆらう
たしあしりし。禁句。秘句あまひいさまふ
まいの。ま各の句。ま各の句。又しとやうれ
まゆり句まそまうか。句の度しはらま
かゆししとえんし。又まぬい又まをい
ししと候まにさねと七ままといふぬま
執るまもゆい句のま各うらまもまび。一ロブ

少くもさうせし流るる下ふる人あはせびびり
けしき懐儀も及古く成りし。さし合は
枕草が汲く。句の言ふと宗通が伝
志くうう懐儀も及古く成りし。さし合は
蕉門は長統くるとさし又ふ時
句儀も及ぬらう。枕草の言ふを
月花の言ふとさしあはれ人か
句儀も及ぬらう。人の言ふとさし
あはれ人か

系句とあはれ人の言ふとさしあはれ
けしき懐儀も及古く成りし。さし合は
枕草が汲く。句の言ふと宗通が伝
志くうう懐儀も及古く成りし。さし合は
蕉門は長統くるとさし又ふ時
句儀も及ぬらう。枕草の言ふを
月花の言ふとさしあはれ人か
句儀も及ぬらう。人の言ふとさし
あはれ人か

ス十字の聖の十徳お色一徳の不行お通に
おのくそまゝよめんとまじしやとく信まろ
いろはの字をまゐはひふかのみま。わか
らぬれよるふあつて其まひやう。神
つしとらと大やうししめするのしく
おまふゆとまじまぶ。あつしひの法あつと
まろえ做まはうひのおまろまじらうまれの
入教と胆要とまろしく。具旨いろはは乃
四十七字とまじしよまぬわくづまぬく

○大やういろはの二主のうみ方うく。
かまづひのほとまろまろ二主はまは。
たのしくまろまろまろまろまろまろまろ
二つありま後と一中わくかどつらも
いろはの上しくまろまろまろまろまろ
色ハ隆苑散去ルヲ。我世後ゾ
石堂。者爲ノ奥山人テ越テ。
浅キ夢不見。後モ不爲
あゆのあゆまはまろ

○日本音韻開合假字反

マ	ハ	ナ	タ	サ	カ	ア	𪛗
モ	ヒ	ニ	チ	シ	キ	イ	𪛗
ム	フ	ヌ	ツ	ス	ク	ウ	𪛗
メ	ヘ	子	テ	セ	ケ	エ	𪛗
モ	ホ	ノ	ト	ソ	コ	ヲ	𪛗
重脣	輕脣	舌	舌	齒	牙	喉	
		齒					
							開淺

ヤ	ラ	ワ	レ	ア	ナ	カ	ア
イ	リ	井	ム	喉	タ	舌	カ
エ	ル	ウ	フ	エ	カ	牙	サ
ヨ	シ	エ	ト	オ	歯	齒	ウ
ウ	口	ホ	ト	喉	舌	齒	羊
	舌			𪛗	𪛗		舌
	齒			𪛗	𪛗		
				𪛗	𪛗		開合
				𪛗	𪛗		深合
				𪛗	𪛗		開合
				𪛗	𪛗		深合

アロヤ喉。タ舌。カ牙。サ齒。ウ羊舌。

ナハ半齒。トハマハ唇音。

○三約の中は、いゝはの、うは、ま、し、う、あ、

か、ら、や、う、に、ん、あ、る、を、と、ん、ぶ、く、ら、う、

九十字文の、あ、い、う、え、お、

○いふかふいふえも 是ヲアノウエヲ
いふかふいふえハヤイエヨノ行トモシ

○イノまニツウカ

アノウエヲ中のいのまにかういふまふく
いふいふいふいふ。運。雲。よまが。いふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふ
カノウエオの中いふいふのまを東。教。え
まのトふいふ。オのまをいふいふいふのま
又割のトふいふいふいふいふいふいふいふ

ちりくついふいふいふいふいふ

○イノまのいふいふ。着いふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

○いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

アワヤの二行と圖の始。中ト有。

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

○アイウエヲアヨリイウヲ生
 イヨリエヲ生ーウヨリヲ生マ 叶め各
 あの一字と音の振をいへん人の口と舌と
 始を又あの音と又少唇と振と齒と
 又いゝ音と舌と入るは江とウ
 りの音と舌と入るは江とウ
 皆あゝと舌と入るは江とウ
 もウ川と舌と入るは江とウ

○さーい
 刻の又の訓の中又のトあてまふをさ
 刻の又の訓の中又のトあてまふをさ

○トあてまふをさ
 就付
 皆交清音
 又のトあてまふをさ

○中のか
 一字の刻又の訓の中又のトあてまふをさ

○六十三
 一字の刻又の訓の中又のトあてまふをさ

えと枝えとよ榊えとら役の成なり

○紫衣をよと越エ代エ添エ美エの成く

又延年英位の傍字と改めんと用

○おくのき

おりと神の成下とてつかく成らん

○あまの川の成くあまの成くあまの成く

○トとりつくかかろくするしとて

とる声の成く又永御園恒

○くのか

河の中トくはるゆきもさうるを河の中
なとさくくとくともく

○河の中トくわらふとくわらふとく

ゆきをあつちやくたふるさむ

○一まの音と河の音とわらふとく

まかりしめは保娘らぶとく

○中人

川の成くあまの成くあまの中トんが

らむとてふはのたふらむ

○何のぬからふへんえん女もろくもさのし時

とろくもかきとふまね風のそと風音のびきを

○ふみの中下ふかしろもをさるゝとてら

てとの針ちとねやしろのさのり

○てにそほのそとあべはさしそこぬを

そとざとろとろくもさるゝ

○おくのむも、初の大さの利ま

○るもさるゝ女のびくおとさ思おけん

おふ鬼おろひまおひせむし思のれえ

○一字の御ふ、其はびきの新髪し小尾

びりぬ。尾はおとしたのさるゝ

○わはのびりや、おはのりし

○おのばい何の中かとりとよむ時。てにたのは

いふ殺ちるもろくも早振ねくる後振のれ

阿波多のぬくかきいくり之親く、果のれ

○はのりし、何のふもまの二は神。一はの無

何のし、わりし、裏りし、合りし、海のれ

○はのりし、何のふもまの二は神。一はの無

まのけ者。ぢんぢん。あゝびらうらひ。
いゝあゝけらびらうらひ

○りまよとひ

入のつりまの暖のうらうらうとけらうらうら

なれぬかかちんつものまよとけらうら

かゆあむりてぬらうら新のうらまはく

○んむのまよ

あけま女と。いらはん。むいゝてんままはし。

仍むんと通用してりらうらうらうらうら

むいゝ唇とくまりくまらへ。はんの唇と

かゝ鼻とくまらへ。あふ後人んん

のまよと他少むいんま。んむいゝをず

又上とまよむらぬ。ししま馬しとまよむらぬ

とくまらぬ。んまらぬんめまよとまよむらぬ

かんとまんまのまよんまらぬたがひ

○音うらや

まのけらまのけらまのけらまのけらまのけらまのけら
○りまよとひ

キマウケウヨウヤウアラウオウウリヤウ
キマウケウヨウヤウアラウオウウリヤウ

ついでにやまゆ。まじらふこと三つありて、
けしめたがしい各五十字文返しなごらぬこ
○又これより。小三の。とみ各。横河の。はと
りつた又の。娘。遊。の。ご。ご。ご。ご。ご。
まじらふこと三つ。行はる。まじらふこと三つ。
まじらふこと三つ。行はる。まじらふこと三つ。
まじらふこと三つ。行はる。まじらふこと三つ。
まじらふこと三つ。行はる。まじらふこと三つ。
まじらふこと三つ。行はる。まじらふこと三つ。

能説止遊西牙のちぢるゆゆ又ま
諸國行師の時ゆゆゆゆの
まぢるちぢる修々能説の字ま
ゆゆ也考み非んゆゆのゆゆ
ゆゆゆゆゆゆと見えゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

夫教能色之入傷の常也君臣教を
中婦一足天明友百徳お和し
等部お鳥よあ國家お生
産業お勤又一口の常始と
るふぬせりも考少想りとい人
ゆりすことよとてい心離ハ平中波
去條の妙術たままあるん山内人
佛耕報千萬宅の経書みわ

ふ字も字ト一尺と軍ことみけん
いひいた男と字を能き也知事
一守守六口經の語み落るる人
ふ字もふ知しと吹送老軍一の
去條の利くお解るれせりも後
只外み求て分世とてふ人
蜀と或能き或能きと格練
以の是程義理を立日取善

句着のちを生きたるハ雄きの末也
可名

丁卯臘天日 雲

梅

枯木



右ハ父飛良ガ好リゆ也無能禪師と云の一事
百世乃 俳士道ノ流道ノと云リ

後序

久人の品名多幼く多死に
仇借と母人々都郡葉門
く事又久一井いれ半百
あまうて古人くうた生あう人
けうく遠く人此く丹と
是か見くふ事り梅事

只傳... 諸君... 似信... 執心...
 只傳... 諸君... 似信... 執心...
 只傳... 諸君... 似信... 執心...
 只傳... 諸君... 似信... 執心...
 只傳... 諸君... 似信... 執心...
 只傳... 諸君... 似信... 執心...
 只傳... 諸君... 似信... 執心...
 只傳... 諸君... 似信... 執心...
 只傳... 諸君... 似信... 執心...
 只傳... 諸君... 似信... 執心...

功心... 似信... 執心...
 功心... 似信... 執心...
 功心... 似信... 執心...
 功心... 似信... 執心...
 功心... 似信... 執心...
 功心... 似信... 執心...
 功心... 似信... 執心...
 功心... 似信... 執心...
 功心... 似信... 執心...
 功心... 似信... 執心...

子孟春

三君菴

古音



明和五戊子歲春三月

皇都書林

中西卯兵衛

田中庄兵衛

